

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	華調理製菓専門学校
設置者名	学校法人 華学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
調理専門課程	調理ベーシック科(1年制)	夜・通信	16 単位	4 単位	
	調理テクニカル科(2年制)	夜・通信	51 単位 (860 時間)	7 単位 (160 時間)	
	スイーツ・カフェ科(1年制)	夜・通信	27 単位	4 単位	
	パティシエテクニカル科(2年制)	夜・通信	53 単位 (1,498 時間)	7 単位 (160 時間)	
	調理本科(1.5年制)	夜・通信	※		
(備考) () 内の時間数は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。 ※調理本科は現在募集停止(在籍者なし)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。
 掲載 https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_kamoku_c2026.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	華調理製菓専門学校
設置者名	学校法人 華学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校事務窓口にて、閲覧希望者に開示する

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)企業 執行役員・研究 統括部長	2026.6.1～ 2030.定時 評議員会終 結時	学園全体に対する 専門的な知見
非常勤	(株)企業 代表取締役	2026.6.1～ 2030.定時 評議員会終 結時	学園全体に対する 専門的な知見
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	華調理製菓専門学校
設置者名	学校法人 華学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 調理ベーシック科(1年制)、調理テクニカル科(2年制)、スイーツ・カフェ科(1年制)、パティシエテクニカル科(2年制) 【作成について】 各授業科目については、毎年度、学内会議(教職員運営委員会、教育課程編成委員会等)において、授業科目の設定・講義内容についての検討・検証を実施し、各授業担当教員による作成を行っている。 校内の教員用内規(シラバスの作成の方法と手引き)の中で、授業科目名、必要時間数、担当教員名、授業の目的(到達目標)・内容、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法、教科書および資料・参考文献に関する事項は、全学科共通で記載することが必須となっており、校内統一様式でシラバス作成を行っている。 【時期について】 翌年度の講義内容(授業計画)は1月～2月に担当教員が作成し、4月に当該年度分のシラバスをまとめて学生へ配信する。またHPにて公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hana.ac.jp/common/pdf/syllabus_03_2026.pdf https://www.hana.ac.jp/common/pdf/syllabus_04_2026.pdf https://www.hana.ac.jp/common/pdf/syllabus_05_2026.pdf https://www.hana.ac.jp/common/pdf/syllabus_06_2026.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則において、学内の成績評価・履修・卒業要件について規定している。 各科で定める授業科目の試験(課題・レポートなど)により成績評価を行っている。 (参考)(評価・修了の認定) 学則第22条 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。 細則2 試験及び成績について (2) 試験方法 試験は、筆記試験を原則として、口述試験及びレポート等をもって代えることができる。ただし、教職員会においてこれに代わる方法を認めた科目については、この限りではない。 (3) 試験及び成績評価 本校において施行する試験は、定期試験と、教科目担当者が学期の中途において随時行う試験がある。 ① 定期試験は、教科目修了に応じて各学期末に行う試験をいう(合格点は60点以上)	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価における客観的な指標の算出方法として、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)。 学業成績は、授業科目ごとに行う試験(定期試験、実技試験等)によって評価される。本校では各授業の評価について100点満点を基準として、60点以上を合格としている。合格者の中でも、評価点数により100～90をS、89～80をA、79～70をB、69～60をCとして成績が通知される。 成績評価方法については、入学時および成績発表時のオリエンテーションにて学生へ通知している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	掲載： https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_seiseki_c_2026.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定・称号授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を次のように定め、ホームページ(HP)、学生便覧等で公表するとともに適切に実施している。 ＜調理ベーシック科＞ 1. 調理の専門職に求められる基礎的な知識を学び、技術を習得し、実践できる。 2. 他者との協調のもとに行動でき、且つ協働作業に責任をもって取り組むコミュニケーション能力を有している。 3. 調理専門課程(1年制)での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組むことができる。 ＜調理テクニカル科＞ 1. 調理の専門職に求められる知識を学び、技術を習得し、実践的に応用できる。 2. 他者との協調のもとに行動でき、且つ協働作業に責任をもって取り組むコミュニケーション能力を有している。 3. 調理専門課程(2年制)での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組むことができる。 ＜スイーツ・カフェ科＞ 1. 製菓・製パンの専門職に求められる基礎的な知識を学び、技術を習得し、実践できる。 2. 他者との協調のもとに行動でき、且つ協働作業に責任をもって取り組むコミュニケーション能力を有している。 3. 調理専門課程(1年制)での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組むことができる。 ＜パティシエテクニカル科＞ 1. 製菓・製パンの専門職に求められる基礎的な知識を学び、技術を習得し、実践的に応用できる。 2. 他者との協調のもとに行動でき、且つ協働作業に責任をもって取り組むコミュニケーション能力を有している。 3. 調理専門課程(2年制)での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組むことができる。 校長は所定の課程を修了したと認めた者に、卒業証書を授与する。 卒業については、卒業判定会議を開催し、成績・出席状況、資格要件に照らして総合的に判断し決定する。詳細は学則(総則および細則)、学生便覧等に記載し、HPにて公表している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	掲載： https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_sotugyou_c_2026.pdf

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	華調理製菓専門学校
設置者名	学校法人 華学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	掲載： https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_taisyakutaisyo_2026.pdf
収支計算書又は 損益計算書	掲載： https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_syushi_2026.pdf
財産目録	学校事務窓口にて、閲覧希望者に開示
事業報告書	同上
監事による監査 報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
衛生		調理専門課程	調理ベーシック科 (1 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	35 単位		20 単位		15 単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
110 人		45 人	0 人	7 人	14 人	21 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 4月、9月に担任が個別面談を行っている。その他、個別に必要なに応じて指導や面談を実施し、面談内容は学生カルテに記録している。また、学外教育活動のプログラム等(海外研修、部活動など)を設定し、意欲ある学生の積極的な学修を支援している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	3人 (5.5%)	48人 (87.2%)	4人 (7.3%)
（主な就職、業界等） 専門店（西洋、日本、中国、パン）、ホテル、旅館、結婚式場、集団調理			
（就職指導内容） 職業理解、社会人マナー、自己分析、求人票の見方、履歴書およびエントリーシート作成、面接模試、企業研究、個別相談の対応等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 調理師、専門調理師技術考査、食育インストラクター、介護食士3級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	1 人	1.8%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に担任面談、内容により学生指導担当や学科長等が面談を実施し学生と対話する機会を多く設けている。 経済的理由の場合は、保証人と連絡をとりながら奨学金等の説明を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		調理専門課程	調理テクニカル科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	65 単位 (1, 834 単位時間)	32 単位 (850 単位 時間)		33 単位 (984 単位 時間)		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		63 人	1 人	10 人	15 人	25 人	
(備考) ()内の時間数は、令和7年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 4月、9月に担任が個別面談を行っている。その他、個別に必要なに応じて指導や面談を実施し、面談内容は学生カルテに記録している。また、学外教育活動のプログラム等(海外研修、部活動など)を設定し、意欲ある学生の積極的な学修を支援している。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 専門店（西洋、日本、中国）、ホテル、旅館、結婚式場、集団調理			
(就職指導内容) 職業理解、社会人マナー、自己分析、求人票の見方、履歴書およびエントリーシート作成、面接模試、企業研究、個別相談の対応等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 調理師、専門調理師技術考查、食育インストラクター、介護食士3級、食品技術管理専門士、色彩活用ライフカラー検定3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58 人	6 人	10.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲の低下、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に担任面談、内容により学生指導担当や学科長等が面談を実施し学生と対話する機会を多く設けている。経済的理由の場合は、保証人と連絡をとりながら奨学金等の説明を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		調理専門課程	スイーツ・カフェ科 (1年制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	32単位	10 単位		22 単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		34人	0人	7人	7人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 4月、9月に担任が個別面談を行っている。その他、個別に必要なに応じて指導や面談を実施し、面談内容は学生カルテに記録している。また、学外教育活動のプログラム等(海外研修、部活動など)を設定し、意欲ある学生の積極的な学修を支援している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49人 (100%)	41人 (83.7%)	4人 (8.2%)	4人 (8.2%)
(主な就職、業界等) 専門店（製菓・製パン・カフェ）、ホテル、結婚式場			
(就職指導内容) 職業理解、社会人マナー、自己分析、求人票の見方、履歴書およびエントリーシート作成、面接模試、企業研究、個別相談の対応等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ラッピングクリエイター3級、製菓衛生師受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	2 人	3.9%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由、学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に担任面談、内容により学生指導担当や学科長等が面談を実施し学生と対話する機会を多く設けている。 経済的理由の場合は、保証人と連絡をとりながら奨学金等の説明を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		調理専門課程	パティシエテクニカル科(2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	64 単位 (1, 820 単位時間)	17 単位 (450 単位 時間)		47 単位 (1370 単 位時間)		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		49 人	3 人	8 人	10 人	18 人	
(備考) ()内の数字は、令和7年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 4月、9月に担任が個別面談を行っている。その他、個別に必要なに応じて指導や面談を実施し、面談内容は学生カルテに記録している。また、学外教育活動のプログラム等(海外研修、部活動など)を設定し、意欲ある学生の積極的な学修を支援している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	0人 (0%)	30人 (85.7%)	5人 (14.3%)
(主な就職、業界等) ホテル、結婚式場、専門店（製菓・製パン・カフェ）			
(就職指導内容) 職業理解、社会人マナー、自己分析、求人票の見方、履歴書およびエントリーシート作成、面接模試、企業研究、個別相談の対応等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 調理師、専門調理師技術考査、食育インストラクター、介護食士3級、食品技術管理専門士、色彩活用ライフカラー検定3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	2 人	5.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に担任面談、内容により学生指導担当や学科長等が面談を実施し学生と対話する機会を多く設けている。 経済的理由の場合は、保証人と連絡をとりながら奨学金等の説明を行っている。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
調理ベーシック科 (1年制)	200,000 円	600,000 円	620,000 円	
調理テクニカル科 (2年制)1年次	200,000 円	600,000 円	555,000 円	
調理テクニカル科 (2年制)2年次	-	640,000 円	680,000 円	
スイーツ・カフェ科 (1年制)	200,000 円	620,000 円	625,000 円	
パティシエテクニカル科 (2年制)1年次	200,000 円	620,000 円	645,000 円	
パティシエテクニカル科 (2年制)2年次	-	640,000 円	705,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
・創立者 坂本静子・愛子奨学金制度〔特待生制度〕 他				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
前年度評価について、学校HPにて公開している https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_jikohyouka2026_c.pdf		
第三者評価の基本方針(実施方法・体制)		
学校関係者として、関係企業、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、学校関係者評価の実施、運営規定に基づき、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行っている。評価内容は理事会、学校運営委員会、教職員会などで報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
日本料理 特別料理顧問	2026.4.1～2027.3.31	企業関係者
ホテル ペストリーシェフ	2026.4.1～2027.3.31	企業関係者
ホテル 西洋料理シェフ	2026.4.1～2027.3.31	卒業生
中国料理 料理長	2026.4.1～2027.3.31	卒業生
高等学校 教員	2026.4.1～2027.3.31	高等学校関係者
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
前年度評価について、学校HPにて公開している https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_hyouka2026_c.pdf		
(備考)		
第三者評価は未実施であり、現時点で受審時期は未定である。このため、上記表中の第三者評価に係る各項目については、学校関係者評価に関する情報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

https://www.hana.ac.jp/common/pdf/info_gakka.pdf

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113310600031
学校名（〇〇大学 等）	華調理製菓専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 華学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		55 人 (36 人)	56 人 (34 人)	56 人 (36 人)
内 訳	第Ⅰ区分	14 人	19 人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅱ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(0人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	- 人	- 人	
	区分外（多子世帯）	19 人	20 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人 (0人)
合計（年間）				56 人 (人)
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
	年間	前半期		後半期	
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0	人	0	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0	人	0	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0	人	0	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	-	人	0	人
計	人	-	人	0	人
(備考)					

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	-人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	-人
計	人	0人	-人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。